

# I 平成2年国勢調査結果の概要

## 1. 人口

— 三重県の人口は1,792,542人 —

平成2年10月1日現在の三重県の人口は1,792,542人で、全国速報（平成2年12月21日付け官報号外で公表された概数をいう。以下同じ）による全国総人口123,611,541人の1.5%を占めて、全国47都道府県中、第24位である。（表1）

## 2. 人口密度

— 人口密度は1㎦当たり310人 —

国土地理院が公表している昭和62年10月1日現在の三重県の面積は5,777.69㎦で、これにより三重県の人口密度を計算すると、1㎦当たり310人となる。

これを昭和60年の確定値302人と比較すると、8人の増加であり、また、大正9年の第1回国勢調査による人口密度188人と比べると、この70年間に1.6倍過密になったことになる。

なお、全国速報による全国の人口密度は332人で、三重県は全国値より22人少なくなっており、全国順位は第18位である。（表2）

表1 全国速報による人口150万人以上200万人未満の都道府県

順位	都道府県	人口(人)	前回順位	全国人口に占める割合(%)
19	群馬県	1,966,287	19	1.6
20	栃木県	1,935,186	21	1.6
21	岡山県	1,925,913	20	1.6
22	熊本県	1,840,383	22	1.5
23	鹿児島県	1,797,766	23	1.5
24	三重県	1,792,542	24	1.5
25	山口県	1,572,645	25	1.3
26	長崎県	1,563,015	26	1.3
27	愛媛県	1,515,027	27	1.2

表2 人口密度

年次	人口密度(人/㎦)
大正9年	188
昭和60年	302
平成2年	310
(全国速報)	332

## 3. 人口の推移

— この5年間に2.6%増加 —

昭和60年に比べると、人口は45,231人、率にして2.6%増加している。また、第1回国勢調査が行われた大正9年には、1,069,270人であったから、この70年間で、約1.7倍になったことになる。

この間の国勢調査での推移をみると、昭和30年から35年にかけて若干減少したのを除くと、調査のたびごとに増加を示している。

戦後は、昭和22年に、海外からの引き揚げや復員による帰国とそれに伴うベビーブームにより18.2%の大きな増加をみたが、昭和22年～25年は3.2%、ベビーブームが去った昭和25年～30年は1.7%と増加率が小さくなり、昭和30年～35年には、0.0%（528人）ではあるが、わずかに減少した。しかし、昭和35年～40年には2.0%増と再び人口増加に転じ、昭和40年～45年には1.9%増、昭和45年～50年には第2次ベビーブームの影響もあり5.4%と増加率は大きく上昇した。しかし、昭和50年～55年には3.7%増と増加率が低下し、昭和55年～60年も3.6%増、さらに昭和60年～平成2年は2.6%増で、増加率は鈍化傾向を示している。（表3）

全国速報によると、29都道府県で人口が増加しているが、人口増加率が低下しているため、全国の増加率2.1%に比べ、三重県の増加率は0.5ポイント上回っており、全国順位も第12位となっている。

表3 国勢調査による人口の推移

年次	人口(人)	前回対比	
		増減数(人)	増減率(%)
大正9年	1,069,270	—	—
14年	1,107,692	38,422	3.6
昭和5年	1,157,407	49,715	4.5
10年	1,174,595	17,188	1.5
15年	1,198,783	24,188	2.1
22年	1,416,494	217,711	18.1
25年	1,461,197	44,703	3.2
30年	1,485,582	24,385	1.7
35年	1,485,054	- 528	- 0.0
40年	1,514,467	29,413	2.0
45年	1,543,083	28,616	1.9
50年	1,626,002	82,919	5.4
55年	1,686,936	60,934	3.7
60年	1,747,311	60,375	3.6
平成2年	1,792,542	45,231	2.6

表4 全国速報によるこの5年間の人口増加率が全国値(2.1%)より高い都道府県

順位	都道府県	増加率(%)	順位	都道府県	増加率(%)
1	埼玉	9.2	9	愛知	3.6
2	千葉	7.9	10	宮城	3.3
3	神奈川	7.4	11	静岡	2.7
4	滋賀	5.8	12	三重	2.6
5	奈良	5.4	13	山梨	2.4
6	茨城	4.4	13	兵庫	2.4
7	栃木	3.7	15	群馬	2.3
7	沖縄	3.7			

— 自然増加率、社会増加率ともに低下 —

人口動態統計(三重県月別人口調査)によると、三重県の昭和60年～平成2年の自然増加数(出生数から死亡数を差し引いた数)は、29,159人で(「外国人」及び「届出遅れ」を含まない。)率にして、1.7%であった。

自然増加率は、第2次ベビーブームを含む昭和45年～50年には5.0%と高率を示していたが、その後は、昭和50年～55年の3.5%、昭和55年～60年の2.4%と低下を続け、昭和60年～平成2年においても1.7%とさらに低下しており、出生数、死亡数ともに少ない「少産少死」傾向は、依然として続いている。

一方、昭和60年～平成2年の5年間の人口増加数(45,231人)から自然増加数(29,159人)を差し引いて求めた社会増加数は16,072人で、率にして0.9%であった。

三重県の社会増減は、昭和25年～45年の各5年間はいずれも社会減少であったが、昭和45年～50年には0.4%の社会増加に転じ、昭和55年～60年には1%を超える増加率を示した。昭和60年～平成2年はわずかに低下し、0.9%の社会増加率を示した。

昭和60年～平成2年の人口増加率は鈍化傾向を示しているが、これは自然増加率の低下に主な原因があるとみられる。(表5)

表5 人口の自然増加及び社会増減(昭和25年～平成2年)

年次	自然増加	社会増減	純増減	自然増加率	社会増減率	純増減率
昭和25年～30年	80,796人	-56,411人	24,385人	5.5%	- 3.9%	1.7%
30年～35年	59,250	-59,778	- 528	4.0	- 4.0	- 0.0
35年～40年	64,128	-34,715	29,413	4.3	- 2.3	2.0
40年～45年	63,346	-34,730	28,616	4.2	- 2.3	1.9
45年～50年	76,818	6,101	82,919	5.0	0.4	5.4
50年～55年	57,004	3,930	60,934	3.5	0.2	3.7
55年～60年	41,199	19,176	60,375	2.4	1.1	3.6
60年～平成2年	29,159	16,072	45,231	1.7	0.9	2.6

#### 4. 男女別人口

— 性比は94.2 —

三重県の男女別人口は、男 869,457人、女 923,085人で、女が男より53,628人多く、性比（女 100人に対する男の数で、男女の構成比をみる指数）は、昭和60年と同じく94.2となっている。

昭和60年と比べると、男22,037人(2.6%)、女23,194人(2.6%)の増加となっており、男女とも同率の増加を示したため、性比は変化しなかった。

全国速報によると、全国の性比は96.5で、三重県より 2.3ポイント高くなっており、三重県の順位は第21位である。

なお、5都県で男子人口が女子人口を上回っており、性比が 100を超えている。（表6）

#### 5. 市・郡別人口

— 市部に三重県人口の約7割が集中 —

三重県の人口を市・郡別にみると、市部 1,210,898人、郡部 581,644人で、三重県人口に占める割合は、市部67.6%、郡部 32.4%となっている。

これを全国速報による全国の市部郡部別人口割合77.4%、22.6%と比べると、三重県では郡部人口の占める割合が高くなっている。

昭和60年と比べると、市部人口 3.4%、郡部人口 0.9%の増加を示しているが、増加率は市部人口の方が高く、その結果、市部人口の割合が 0.6ポイント上昇した。

なお、人口密度は、1戸当たり市部 604人、郡部 154人で、市部と郡部の間には 3.9倍の大きな差がある。また、性比は市部 95.1、郡部92.4である。（表7）

表6 男女別人口及び性比  
(昭和60年、平成2年)

年次	男	女	性比
昭和60年	847,420人	899,891人	94.2
平成2年	869,457	923,085	94.2

表7 市・郡別人口（昭和60年、平成2年）

年次	人口(人)		県人口に占める割合(%)	
	市部	郡部	市部	郡部
昭和60年	1,170,856	576,455	67.0	33.0
平成2年	1,210,898	581,644	67.6	32.4

#### 6. 地域別人口

— 人口の「北高南低」傾向さらに顕著に —

地域別人口をみると、北勢地域（四日市市、桑名市、鈴鹿市、亀山市、桑名郡、員弁郡、三重郡、鈴鹿郡）が 753,704人、中南勢地域（津市、松阪市、久居市、安芸郡、一志郡、飯南郡、多気郡、度会郡の大宮町、紀勢町、大内山村）が 501,909人、南勢志摩地域（伊勢市、鳥羽市、大宮町・紀勢町・大内山村を除く度会郡、志摩郡）が 270,897人、伊賀地域（上野市、名張市、阿山郡、名賀郡）が 166,662人、東紀州地域（尾鷲市、熊野市、北牟婁郡、南牟婁郡）が99,370人の順となっており、三重県人口に占める割合は、北勢地域42.0%、中南勢地域28.0%、南勢志摩地域15.1%、伊賀地域 9.3%、東紀州地域 5.6%となっている。

昭和60年に比べると、伊賀地域で 8.7%と大きく増加しているほか、2地域で増加しているが、南勢志摩地域が今回初めて 1.4%の減少を示したほか、東紀州地域が前回の 3.3%を大きく上回る 6.1%の減少を示しており、人口の「北高南低」傾向がさらに顕著になった。（表8）

表8 地域別人口（昭和60年・平成2年）

地域	平成2年	県人口に占める割合(%)	昭和60年	昭和60年～平成2年増減	
	国勢調査人口(人)			国勢調査人口(人)	増減数(人)
北勢	753,704	42.0	718,327	35,377	4.9
中南勢	501,909	28.0	495,373	6,536	1.3
南勢志摩	270,897	15.1	274,863	- 3,966	- 1.4
伊賀	166,662	9.3	153,320	13,342	8.7
東紀州	99,370	5.6	105,428	- 6,058	- 6.1